

マゴットセラピー研究会

徳洲会から2演題発表

難治性創傷治療に効果

第3回マゴットセラピー研究会がこのほど、湘南鎌倉総合病院（神奈川県）で開催された。同院の小林修三副院長・腎臓病総合医療センター長が会長を務め、徳洲会グループ内外の医師16人が演題発表や特別講演、シンポジウムを行った。会場には約50人の参加者が集まり盛況だった。徳洲会からは同院の2人の医師が発表、その概要を紹介する。



MDTとSDTの比較結果を報告した近藤医師

マゴットセラピーとは医療用の無菌ウジ（ハエの幼虫「マゴット」）を用いた治療法をいう。壊死した組織だけを食べるマゴットの性質を利用して、難治性の創傷などを治療する。湘南鎌倉病院形成外科・美容外科の近藤謙司院長は「Maggot Debridement Therapy (MDT) vs Surgical Debridement Therapy (SDT)」(マゴットを用いた壊死

組織の除去vs外科的に行う壊死組織の除去)をテーマに発表した。下肢に血液を運ぶ末梢動脈に狭窄・閉塞が起こると、血流の低下により潰瘍や壊死ができる。これをPAD(末梢動脈疾患)といい、悪化すると下肢の切断に至ることがある。治療を促すには適切なデブリードマン(壊死組織の除去)が必要となる。同院形成外科では従来のSDTに加え2006年からMDTを開始。近藤医師はMDTとSDTとの比較結果を報告した。従来の基準であれば大

最後に近藤医師は「SDTもMDTもPAD治療には必要な手技。創部や患者さんの状態によって選択することが大切で、最後の方法という報道がなされていますが、さまざまなツールのなかのひとつとして捉えるのが良いと考えます」と結んだ。MDTの利点として近藤医師は、肉芽増殖の促進、心肺機能の低下により全身麻酔が困難な患者さんでもデブリードマンを実施できることなどを挙げた。一方、欠点としては、1回の治療で除去できる量に限りがあり、複数回の治療を要することや、深部に壊死組織が広がっている場合には効率が悪いこと、現在は保険適用外であることなどを指摘した。

冒頭、MDTを実際に受けている入院患者さんの協力の下、参加者らは患部を熱心に観察。山下部長は「60歳代の患者さんで、MDT開始から3日目です。少し前は肉芽がありませんでしたが、今はきれいな肉芽が形成されてきています」と説明した。同院形成外科ではPAD患者さんに対し「各専門科との連携による患肢温存」を治療方針にしている。患肢温存は形成外科による創管理だけでは対応できない。虚血を改善しないと治らないためだ。このため同院は形成外科、循環器科、腎臓内

科、血管外科、内科など多科横断的なフットカンファレンスのチームを設け、内科的治療、血管内治療、外科的治療など個々に対応した治療を行っている。山下部長は豊富な写真を用いながら症例などを報告し、「MDTを希望する患者さんはCLTI(重症下肢虚血)末期の方が多いのですが、MDTが救済の最終手段であるという位置付けは間違っています。現在は自費診療のため制約がありますが、今後、保険が適用され、あくまでひとつの治療ツールとして、さまざまな診療科の立場から新たな治療の展開ができるようになることが望ましい」と訴えた。続けて山下部長は、循環器科医や腎臓・透析医、血管外科医、看護師の各

救済の最終手段ではない 湘南鎌倉病院形成外科・美容外科の山下部長は「PAD治療におけるマゴットセラピーの位置づけは形成外科医の立場から」をテーマに発表した。冒頭、MDTを実際に受けている入院患者さんの協力の下、参加者らは患部を熱心に観察。山下部長は「60歳代の患者さんで、MDT開始から3日目です。少し前は肉芽がありませんでしたが、今はきれいな肉芽が形成されてきています」と説明した。同院形成外科ではPAD患者さんに対し「各専門科との連携による患肢温存」を治療方針にしている。患肢温存は形成外科による創管理だけでは対応できない。虚血を改善しないと治らないためだ。このため同院は形成外科、循環器科、腎臓内

徳洲会グループの 海外医療支援発表 日高・湘南鎌倉総合病院部長 国際血液透析学会 第7回国際血液透析学会がこのほど沖縄県で開催され、湘南鎌倉総合病院の日高寿美・腎免疫血液内科部長がポスター発表を行った。「Nephrology Programs in Sub-Saharan Africa - Experiences and Problems Confront Us」(サブサハラアフリカにおける腎臓病プログラム)を経験と直面している問題)と題し、サハラ砂漠以南のアフリカでの人工透析の現状や、徳洲会グループが行っている医療支援を紹介した。日高部長は、GDPは、国内総生

産)がある程度ある国でさえ透析を受けている患者さんの割合が少ない点を指摘。また人口あたりの腎臓内科医師数が少ない現状などを訴えた。徳洲会グループが行っているアフリカ諸国への医療支援については、透析機器を寄贈し独自の研修を実施している様子を説明。これまで17カ国21チームが徳洲会病院で研修を受けた実績なども示した。最も成功した国にはモザンビークを挙げ、5年間で患者さんの数がゼロから約50人に増加したことを披露。その一方で、ジブチでは水質が悪く、機器の内蔵フィルターがすぐに使用できなくなることを例に挙げ、水や電気、物流などインフラの重要性を強調した。臨床工学技士についても地位の確立や教育などが課題であると谈及した。日高部長は最後に「今後も徳洲会グループと各

同クラブを紹介している。同クラブは心臓リハビリ指導士が心疾患患者さんに特化した運動プログラムを提供しており、問題があれば同院の循環器ホットラインに連絡が入る仕組みだ。同院は必要があればドクターカーを出動させるなど、全面的にサポートしている。リハビリ科の田頭悟志副主任(理学療法士・心臓リハビリ指導士)は心臓手術後、退院してから日常的な運動の場が国内にほとんどないことを危惧。「心疾患患者さんの6割が退院後、家に引きこもってしまうというデータがありますが、二次予防医学の観点からも運動は絶対に必要。一般的なフィットネスクラブでは心疾患の既往があると運動を断られてしまうため、環境の整備が必要だ」と田頭副主任は訴えている。

徳洲会グループ 材料管理システム刷新



新システムをアピールするTISの(右から)藤村部長と杉村職員、新谷副主任

徳洲会グループは資材管理システムを刷新した。6月1日に同システムの品質向上に協力してきた湘南鎌倉総合病院と葉山ハートセンター(神奈川県)で稼働開始、これにより導入予定の全61病院で稼働となった。

新システム「ZAITIS」は、ほぼすべての資材をバーコード化していること、電子カルテと連動していることなどが特徴。従来は備品発注の際、各商品に割り振った10桁のコードを資材課職員が手作業で入力していたが、新システムは商品のバーコードを専用機器で読み取るだけでよい。事務作業の省力化になるうえ、手入力による間違い防止にもなる。

また、電カルと連動することで、たとえば手術で使用する医療材料の消費量と詳細な手術情報を容易に統合することが可能で、「各手術でどのような医療材料を使っているかなど、分析にも役立ちます」と、同システムを開発した徳洲会インフォメーションシステム(TIS)の藤村義明・開発部長は提案する。

将来的には、その病院で使わなくなった資材(デッドストック)のリストを病院間で共有し、資材を融通し合うことも検討。「これまでデッドストックは破棄するしかありませんでしたから、エコにもなると思います」と、杉村知左子・開発部職員はアピールしている。

医療の進化にともない医療資材の種類は年々増加、徳洲会全体で扱う製品は5万種類に及ぶ。システムの刷新はこうした時代背景上、必要不可欠で、「現場の細かな要求や機能追加の要請にできる限り応えられるよう、システムのブラッシュアップを図ります」と、新谷慎吾・開発部副主任は意欲を見せている。

徳洲会は10月に人事・給与システムも刷新する予定。

事務作業を省力化

同院は退院後の心疾患患者さんの運動を促進するため、大阪産業大学が運営する総合型地域スポーツクラブ(年齢や能力に関係なく参加可能な多様なスポーツを提案する施設)と連携。同院で心臓リハビリテーションを受け、心肺運動負荷試験をパスした患者さんに対し、主治医の許可の下、

野崎徳洲会病院(大阪府)の取り組みが日本循環器学会の「循環器病の診断と治療に関するガイドライン」に掲載されている。同院は退院後の心疾患患者さんの運動を促進するため、大阪産業大学が運営する総合型地域スポーツクラブ(年齢や能力に関係なく参加可能な多様なスポーツを提案する施設)と連携。同院で心臓リハビリテーションを受け、心肺運動負荷試験をパスした患者さんに対し、主治医の許可の下、

立場からMDTに携わる発表者とともにシンポジウムに参加。改めてPAD治療でのMDTの位置付けやMDT実施のタイミング、MDTとSDTの適切な使い分け、MDTが効果的な症例などについて意見を交わした。流を目的に、年1回実施しているイベントで、当日は400人が来場した。屋外では駐車場のスペースを活用し、職員や地元商店街の方が出店を運営。またストリートパフォーマンスによるマジックショーや職員による紙芝居なども行い、大きな拍手が湧いた。屋内では徳洲会かまくら体操クラブの小川泰弘教室長による「子ども体操教室」を開催、40人が参加するなど盛況だった。とくに関心が高かったのが福祉用具をテーマにした講演。1日3回実施した講演。福祉用具を活用して6割が退院後、家に引きこもってしまうというデータがありますが、二次予防医学の観点からも運動は絶対に必要。一般的なフィットネスクラブでは心疾患の既往があると運動を断られてしまうため、環境の整備が必要だ」と田頭副主任は訴えている。

福祉用具の講演会盛況 老健リハケア湘南かまくら 介護老人保健施設リハビリケア湘南かまくらはこのほど青葉祭りを開催した。地域の方々の交